



פסיטשיק  
(גייסט)



鳥越敦司 atushi torigoe

私も三., קענען מיר זאָגן אז פסיכיש אָדער אַ גייסט, 心霊、あるいは幽霊といってもいい  
十四、五歳まではこの幽霊が全く見えなかった  
正確に何月に見たかを忘れてしまったので、どちら. דערשיינען ביי אַלע ביז פינף יאר אַלט.  
Forgot וואָס איז געווען געזען אין וואָס  
とにかく、子供の頃より幽霊の話. דווקא ווייל איך טאָן ניט קלאר. 何処でも全く見ることはなかった  
それで、私も幽霊が見えな. なんて誰でも見聞きするし知っているものである  
それで、幽霊なんて存在. 何処でも全く見ることはなかった  
それで、幽霊なんて存在. なんて誰でも見聞きするし知っているものである  
それで、幽霊なんて存在. なんて誰でも見聞きするし知っているものである

十四、五歳になつてしまつた  
その頃、新聞配達をしていたので、朝は三時には起きてバイクで新聞販売店へ向かう。  
毎日を送っていた  
私生活では心霊. 03:00  
写真の本など見ていたのである

ある朝、といつても三時で夜明け前の真っ暗な時間に、いつものようにバイクに乗り販  
売店に向かっていた  
住宅地が多い。ある曲がり角に来たときにいたのだ  
小さい道を国道に出るまで走っていると、ある曲がり角に来たときにいたのだ  
それは半そでの白い薄い衣装で何か外国人の若い女性みたいな人が立って  
いたのだ  
私は、ついに出たと思った。何か透けそうな感じで肉体といった感じではない  
少しその女性は、ゆらりと動いた。仕事に行っているのだから、仕事を止めて  
そこを通り過ぎていった

幽霊を見て発狂した人もいる  
を多数見ていなかったら、おかしくなつたかもしれない  
に頭がおかしくなりそうなのだ  
私もお通夜かな、と思ったのだが、後で考えるとお通夜でも子供が夜中の三  
時過ぎに起きていて、家の外に出てくるだろうかと思うと、あれは心霊だったのである

それから数日後、同じように夜明け前にバイクで仕事に向かっていると、とある家から  
小さな子供が何人も出てきた  
私はお通夜かな、と思ったのだが、後で考えるとお通夜でも子供が夜中の三  
時過ぎに起きていて、家の外に出てくるだろうかと思うと、あれは心霊だったのである  
を多数見ていなかったら、おかしくなつたかもしれない  
に頭がおかしくなりそうなのだ



פסיטשיק (גייסט) יקספיריאַנסזי. עס איז אַ אמת געשיכטע

<http://p.booklog.jp/book/105596>

著者：鳥越敦司 atushi torigoe

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/dontanine/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/105596>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/105596>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ